

群青



八雲町立八雲中学校

令和7年度
11月号

★教育目標 郷土を愛し、未来を築く人間の育成
・健康な生徒(体) ・創造する生徒(知)
・実行する生徒(意) ・感動する生徒(徳・情)

★重点教育目標
「互いに認め合い、学び合う生徒」の育成

二海郡八雲町東雲町 31 番地1

E-mail : yakumo-jh@town.yakumo.hokkaido.jp

ICTと共に進む！

～ 明るい未来に向かって ～

八雲町立八雲中学校長 増田正弘

寒気が一段と強まり、登下校の生徒たちが吐く白い息にも冬の訪れを感じる季節となりました。先日は教育相談が行われ、学習面や生活面を振り返り、これから力を入れたいことを考える良い機会となりました。まもなく三者面談が始まります。特に3年生には、進路を見据え、自分の未来に向けて一歩踏み出す大切な時間になることを期待しています。

近年、札幌市や函館市をはじめ、全国のレストランなどで配膳ロボットを見かけるようになりました。初めて見たときは「人にぶつからないのだろうか」と心配したのですが、今では珍しい光景ではなくなり、ICT技術が私たちの生活により自然に浸透してきていることを実感します。家電の進化、パソコンやスマートフォンの普及に続き、現在ではAIが身近な存在となり、暮らしを支え、さらに便利さを感じる時代になりました。



こうした変化は教育にも広がっています。GIGA スクール構想で一人一台端末が整備され、調べ学習や意見共有、振り返りなどに日常的にタブレットが使われています。八雲町では令和2年度から早期導入され、授業だけでなくさまざまな場面にも活用されてきました。ICTは単なる便利な道具ではなく、学びの在り方そのものを大きく変えつつあります。

今後は、文章や画像を自動生成する「生成AI」を学習の補助として使う場面も増えていきます。英語では自作の英文をAIに添削してもらい改善点を確認したり、国語では感想文の構成案を比較したり、理科では実験結果から考察の視点を広げるヒントを得たりと、主体的な学びにつながる活用が期待されます。教員側でも、学習プリントの説明文を見直す際などにAIの意見を参考にするなど、指導の質を高める取組が広がっていくでしょう。もちろん、AIに過度に依存することのないよう、学びの主体は子ども自身であることを大切にしながら活用してまいります。

高校入試の手続きもデジタル化が進み、願書がWebで行われるようになり、事務処理の正確性と迅速さが向上しています。本校でも、今年度の進路保護者説明会をオンラインで実施しました。ご自宅から参加いただくことで、資料等を画面越しに共有でき、より分かりやすく、時間の有効活用にもつながったと感じております。オンラインの利点を生かしながら、今後も情報提供の方法を工夫してまいります。



社会が大きく変化する中で、生徒たちが未来を主体的に生きる力を身につけられるよう、学校としてもICTやAIの利活用を安全かつ効果的に推進してまいります。生徒一人一人が新しい技術を正しく使いこなし、より良く学び、健やかに成長できるよう、教育環境の充実に努めてまいります。

今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。